



はあもにい 第33号

- ・発行日 2012年4月10日
- ・発行 ポプリ生活介護事業部
- ・編集 はあもにい編集委員会
(0144) 87-3800



祝・落成式!



昨年8月より建設を始めた共生型事業所とケアホーム5棟は1月に完成して、業者より引き渡しを受けた後、地域住民や福祉関係者、利用者父母を対象とした内覧会を開催いたしました。

白老愛泉園の入所機能を廃止して、事業転換を行い利用者全員が市街地のケアホームやグループホームに移動し、3月3日に白老中央公民館で共生型事業所及びケアホーム5棟の完成を祝って、町関係者及び福祉関係者約220名の方が出席して落成式を行い新しい施設の完成を祝いました。

式典の中で、小田井理事長は法人の経営理念である「利用者の誰もが普通に暮らせる社会の実現、地域に支えられて共に生活すること」を述べられ、「利用者の生活の利便性や安全性を重視するとともに、プライバシーや地域住民の交流の場を可能にするよう配慮した建物である。」と挨拶をしました。

その後、落成祝賀会となり、出席者は祝杯を挙げ、その後、法人、各施設の歩みのDVDを見ながら、また、利用者の民謡を聴きながら楽しい一時を過ごしました。

愛泉園施設長 大高

理事長就任挨拶



社会福祉法人 白老宏友会
理事長 森 豊吉

この度、白老宏友会理事長に就任することになりました。創設以来、重みのある歴史の上に立つて、先輩役員が築き上げてきた福祉の精神と施設運営の質の高まりを大切にし、新たな障がい者福祉の充実を目指したいと考えています。

さて、当法人の二十八年の経緯をみるに、入所更生施設「白老愛泉園」を軸として、徐々に地域福祉事業展開に向けてグループホームを開設し、障害者授産施設ポプリ（後に新体系に移行）・地域生活支援センターあぶろ・ベーカリーショップななかまど等、地域移行の着実な歩みを進めてまいりました。

今般、障がい者自立支援法に基づき事業転換推進により、白老愛泉園の入所施設をケアホームの転換をもって地域福祉への移行が、一応完了したことになります。

今日の発展は、白老町を始め関係機関・各団体・地域住民の理解と協力によるものであり、当法人は利用者が地域社会の中で豊かに暮らせるよう「一層の努力をしなければなりません。幸い、各施設長のリーダーシップと常に利用者への寄り添い一人ひとりの思いをしっかりと受けとめ支えるスタッフと、役員共々職責を全うしたいと決意を新たにします。

小田井前理事長退任挨拶



社会福祉法人 白老宏友会
前理事長 小田井 虎雄

例年にならない寒気、加えて大雪の飛来等により白老の町にも遅い春らしいやわらかな風の訪れ、桜の花見などの計画を口にする季節になりました。

この度、一期二年当会役員の改選期に当り、平成十八年四月一日より前任者 富士理事長の後任を経験も、学識、知識も全くない私が理事長として推薦され、その重責を担って今日まで無事、これと特記する様な事件、事故もなく本任務を終えることの出来る喜びを今、この地球上のご縁があつてお互いに仲間として知り合い、何の屈託もない心で言葉をかけ合い楽しく日々を送らせて戴いたお陰であると特に感じております。感謝を申し上げます。この度、全道に始めて全居住入所施設を転換し、地域の方々と交流の出来る場の施設、加えて耐震、耐火、バリアフリー、オール電化と至れりつくせりの個室とケアハウスが飛生の不便な地から築二十八経過していた地点から小さい街ながら病院、コンビニ、書店、その他商店街の軒並、他の人々との行き合い、私達役員、保護者の方々そして最後に驚嘆を声たからかに部屋、ロビーで両手を上げて満面笑顔で「声なき声」出し喜んでくれた利用者の方々の、あの想い皆さん大事にしてやって下さい、私の後任者である森理事長にも私同様変わらざるご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人 白老宏友会 役員

(任期 平成24年4月1日～平成26年3月31日)

- 理事長 森 豊吉(新)
- 理事 谷島 ハギ(再)
- 理事 豊岡 一(再)
- 理事 鈴木 靖男(再)
- 理事 藤本 直司(再)
- 理事 大屋 正義(新)
- 理事 平田 曜子(新)
- 理事 大高 宏雄(再)
- 監事 田村 正三(再)
- 監事 丹羽 道正(再)
- 顧問 小田井 虎雄

退任理事紹介

理事 清水 静子

(昭和63年10月29日就任、平成24年3月31日退任されました。永きに亘り法人運営にご尽力頂きまして誠にありがとうございました。)

新しい作業場！！ 愛泉園！改修完了！

ボイラー室 12.00㎡	洗濯室 乾燥室 16.00㎡	浴室 シャワー室 18.00㎡	施設内						生活介護 作業室 療育 約55㎡	
生活介護 作業室 薬草 約42㎡	脱衣室 11.25㎡	物品庫 13.301㎡	静養室(女) 14.875㎡	風除室 中央玄関	事務室 (支援員室含) 29.875㎡	相談室 20.00㎡	静養室(男) 17.50㎡	トイレ 19.5㎡	洗面所	生活介護 作業室 療育 約31.5㎡
女子 トイレ 17.50㎡	洗面所	就労継続B 相談室 多目的室 約93.75㎡	中央廊下 83.75㎡			食品庫 13.28㎡	調理室 24.50㎡	調理トイレ 1.50㎡		生活介護 多目的室 22.50㎡
就労継続B 作業室 22.50㎡	玄関	更衣室 11.25㎡	テラス (多目的広場) 85.00㎡	食堂 約140㎡				玄関	更衣室 22.50㎡	
	風除室 21.60㎡	玄関 21.60㎡						風除室 21.60㎡	玄関 21.60㎡	



食堂



生活介護作業室



多目的

入所更生施設から多機能型事業所へ変わるため、居室を各事業活動の部屋や作業室に改修し、平成24年3月1日に利用者の方々が白老町内のケアホームより出勤して、新しい日中生活の場『多機能型事業所 愛泉園』へ足を踏み入れました。今まで行ってきた活動が色々に変更され、最初は戸惑っている様子がありましたが、現在は楽しく日中生活を送っている様子が伺えます。これから利用者の方々に充実した生活を提供できるように日々努力していきたいと思ひます。

愛泉園主任 杉本

輝く未来へ!! ケアホーム生活の始まり!!



新体系移行により3月1日に入所施設を解体し、40名の利用者さんたちがケアホーム・グループホームのある白老町市街地へと引っ越してきました。

利用者の皆さんも引っ越したばかりで慣れないこともあり心の中は不安と期待で一杯だと思いますが、各居室で伸び伸びと生活しています。今までは、生活の場と日中活動が同じ場所でしたがこれからは働く場所である愛泉園に毎日通勤する生活になります。

これからは、各ケアホームの利用者とスタッフがそれぞれのホームの「いろ」に染めて行くことと思いますので、温かく見守って下さい。
あぶろ第2支援課 青山



散髪は各ケアホームへ訪問サービスを迎えて行っています。利用者の皆さんも髪を切ってさっぱりしました。 ↓



↑3月3日(土) ケアホーム「いころ」「のんの」では、保護者の方を呼んで楽しい「ひな祭り」を催しました。

ポプリ仲間会・保護者の会合同新年会

平成24年1月14日(土) 白老経済センターにてポプリ仲間会・保護者の会合同新年会が開催されました。今回の新年会のテーマは、「利用者・保護者・職員が語り合える場」ということで、総勢145名の方が出席されました。

新年会は、ポプリ仲間の役員 高橋 美雪さん・水谷 由香さんの司会進行により始められました。はじめに成人の祝いが行われ、今回は、高橋 美雪さん・川村 智史さん・小倉 大周さん・斉藤 恵一朗さん・田中 兼一さんの5名の方が成人を迎えられました。成人を迎えられた5名を代表して川村 智文さんが今年の抱負を一言!! 「仕事に責任を持って頑張ります」と力強いお言葉を頂きました。続きまして乾杯の挨拶は、成人を迎えられた5名の方によって行われました。今回の豪華な料理は、パン工場からオードブル・給食部からちらし寿司・なな



かまどからガトーショコラ・生活介護事業から珈琲・お茶と、各部分担をしてお用意されました。豪華な料理の品々に皆さんも大満足・大満腹の様子でした。そして皆さんのお腹も落ち着いてきたところで、楽しみにしていたゲーム大会です!! 今回のゲーム大会は、OXゲーム・ビンゴゲームが用意され、ゲーム大会司会進行の笠谷 貴規さん・川村 智史さんによって盛り上げられ始められました。はじめにOXゲームでは、「皆さん本当に強い!!」中々最後の1組が勝ち残らず、白熱した勝負が繰り広げられました。つぎにビンゴゲームでは、豪華景品30品が選り放題ということで、皆さんも真剣な眼差しでビンゴカードを握りしめ、会場は盛大に



盛り上がりました。

また来年度も、利用者・保護者・職員が語り合える場として新年会を開催していきたいと思っていますので、皆さん楽しみして下さい。

最後に、新年会を開催するにあたって1ヶ月前から準備にあたってくれたポプリ仲間会の会長はじめ役員の皆さん本当にご苦労様でした。

ポプリ松野



あぶろ通信

「ホームりん」開設しました。
新しい仲間が増えました。



3月1日より新しくグループホーム「りん」が開設されました。今まで愛泉園にて入所されていた5名の男性です。「りん」の名前の由来は①地域の隣人としての「りん」、②あぶろの隣の「りん」、③凜凜と逞しくの「りん」の意味があります。ベテランと新人の世話人さんが毎日料理を作ってくれ、好きな時に入浴も出来ます。また、生協やコンビニに近いので買い物が行けるようになりました。土曜日は床屋・本屋と皆さん各々に過ごしています。「りんは楽しいよ♥」と倉部さん。これからどんどん楽しいこと・やってみたいことに挑戦していきましょう。



みんなで楽しい食事です。



倉部芳彦さん



万城目敏さん



笹森英之さん



橋本敏明さん



佐々木直人さん

歌って・踊って・食べて・青葉会

新年会



音楽に合わせて



元気いっぱい踊っています

1月28日竹浦の「ホテルほくよ」にて青葉会新年会が賑やかに開催されました。今回、土曜日開催ということで時間の余裕があり、温泉でのんびり。午後5時大和田さんの司会により、伊藤学会長・田野島ゼンター長の挨拶・笠谷副会長の乾杯で宴が始まりました。初めに田中兼一さんのキーボード演奏で「天空の城ラピュタ」「思い出ボロボロ」などジブリを堪能。会食後はハウス対抗ゲームで熱い戦い。腰に万歩計を着けて30秒の駆け足走。各ハウス5名の合計数が一番多いピコハウスが見事優勝。米5kgをゲットしました。一生懸命走っているのに数が増えない人・踊っている人・腰だけ動かししている人等、その格好に大盛り上がり。その後はカラオケタイムとなり、飲んで・踊って・歌っての楽しい行事でした。最後は写真担当の伊東さんのカメラで総勢64名がハイチーズ!

あぶろ 加藤

日本財団福祉車両助成事業よりの送迎用マイクロバスを購入しました。



3月9日、日本財団よりの助成金の交付を受けて購入したマイクロバスが納車されました。
このバスは、ケアホームより愛泉園へ通所される利用者さんの送迎に使用されます。助成事業完了にあたって謹んでお礼を申し上げます。



総勢64名ハイチーズ!



社会福祉法人 白老宏友会 平成24年度事業運営方針

平成23年度事業は、白老愛泉園の新体系移行による日中系的生活介護、就労継続B事業（多機能型）の開設や夜間支援のための、ケアホーム5棟の建設、隣地に共生型サロンの建設及びグループホームの改修を行った。愛泉園についても、基盤整備事業を使用して日中事業に用途変更を行うため内部改修などを行い、全体として法人設立以来、最大の事業計画を進めた。新規事業開設に伴い、職員採用も多数にのぼり後期には職員研修を進めてきたが、これからも引き続き研修を進めなくてはならない。

今年度は、昨年度に提出した日中系単独生活介護施設の建設認可に向けた準備と関連部門の準備を早めに進めていく。

また、新会計基準移行については、1年間延期して平成25年4月より施行とし、今年度を準備、研修期間として進めていく。

1 法人経営の取り組み 法人経営に関して

- 法人経営の企画立案と財政健全化を図る。
- 法人本部機能を強化して、週日対応する準備期間。
- 24年度社会福祉施設等整備の準備と関連部門の準備を行う。
- 職員採用に向けた取り組みを早期に実施する。
- 新会計基準の実施に伴う研修を行う。
- 各事業の連絡、調整、連携を密に図る。
- 要覧、ホームページの随時更新、機関紙「はあもにい」の発行、監修を行う。

利用者支援に関して

- 各事業部における技術の向上と収益性の向上を目指し、工賃向上を図る。（新製品の試作、開発）（ホプリ）
 - 第1支援課と第2支援課の編成及びサポートの強化を図る。（あひろ）
 - 短期入所事業による活用で新規利用者の開拓を図る。（あひろ）
 - 新体系移行後の各事業の充実を図る。（愛泉園）
- 施設整備に関して
- 平成24年度施設整備（日中系・生活介護事業所）建設の準備を行う。

2 法人職員への取り組み 職員の意識改革に関して

- 全職員の公平性を常に配慮し、職員相互の友愛、信頼性の昂揚を高め、利用者に対する安心、安全の場を構築するための支援を行う。
 - 職員の資質向上に努め各種研修を行い職員の意欲の向上を図る。
- 危機管理に関して
- 具体的な事態を想定し、避難訓練、情報収集、関係職員、機関団体への連絡統制などの徹底を図る。

指定障がい福祉サービス事業多機能型事業所 愛泉園 事業計画

入所施設という機能をもって障がい者福祉を担ってきた白老愛泉園ですが、障害者自立支援法に基づく事業体系へ移行するにあたり、新たな始まりの一步を踏み出しました。これまでの入所型の機能とは異なった目標のもとその機能を十分に発揮させて、これ以上利用者の生活の質を向上させていかなければなりません。職任分離の思想に沿った「普通の生活」を享受し、障がいが生きることの障壁とならないように改めて認識しながら支援に当たりたい。利用者個々の特性や障がいによって異なる行動傾向などに十分配慮、理解し、個人にとっての必要な支援を提供できることを常に念頭に置きながらスタートとする。

運営方針

- どんな障がいの軽重にもかかわらず、人として生きる営みに対して、愛泉園は必要な支援を行う。
- 人権を無視したような行いも禁じ、利用者の人格を尊重し、生きる喜びを共に享受できるように支援を行う。

支援方針

- 生活介護事業サービスは、個別支援計画に基づき、身辺的な介助を行いながら簡易な生産活動、創作活動、レクリエーション等を行いながら日中活動への働きかけを行い、心身ともに健やかな生活を送れるために支援を行う。
- 就労継続事業B型サービスは、個別支援計画に基づき、生産活動への参加の機会を提供し、作業知識及び技術、社会性の向上を目指した支援を行う。また、より高い工賃を還元できるように創意工夫しながら支援を行う。個々の利用者のニーズに沿って、より高い就労環境に適應できるように、その機会を調整、提供し支援を行う。

生活介護事業サービス

障がいの特性による対応の個別化、広汎化、加齢等の条件によって暮らしにくさが絡み合っている中で、基本的な生活の領域への支援の度合いが非常に多くなっている現状を鑑み、安全で安心な生活を送ることができるよう配慮しながら日中の生活の充実を図ります。

就労継続支援B型事業サービス

これまで生活の中心となっていた入所更生施設の役割から日中活動の生活の一部に特化した支援体制を構築することで、より専門的な職業支援への取り組みが可能になり、利用者の特性を上げ高めることの必要性が出てきます。そのため個人の特性に応じた職業的作業項目の分析をはじめとして、利用者可能な作業項目の設定を行うことで達成感を高めながら就労意欲の向上を目指します。さらに収益率を上げることで還元工賃を高める工夫を行い、労働意欲を高め、稼働率を高めることを目指します。

指定障がい福祉サービス事業多機能型事業所 ポプリ 事業計画

ポプリの前進である「バーカーリーショップななかまど」が開店して今年で20周年となります。今振り返ると、仲間達への支援技術も、パンを作る技術も、何もかも不満足でしたが、それでも仲間達の幸せや成長を目指す気持ちは職員も親も一緒でした。あれから20年、今もその心は引き継がれ、ポプリの運営は三者一体の動きの中で、更なる10年を目指して行きたいと思えます。

尚、これからの白老町は、現在人口が19千人・高齢化率34%が10年後、人口16千人・高齢化率44%と経験したことの無い超高齢化時代となります。パンや菓子売って工賃還元を行っている事業では、現在の売りの上げを維持するのも困難になると予想されます。出来る手立てと、新たな発想で私達の仲間が地域社会で生きていくための術を、早急に考え具体化していかなければなりません。

この1年は、「ななかまど」の20年を祝い感謝する1年であり、この先10年を目指した計画立案の1年でありたいと考えています。

＜就労継続支援B型事業＞

主だった取り組みとしては、「ななかまど」20周年を迎えるにあたり、この節目により付加価値が高く消費者に求められる製品づくりを目指すため、製品をリニューアルし、20周年セールを実施する。原材料から製法の見直しを行い、地域嗜好を意識した取り組みは基より、一般評価についても高い品質を追求し、厳選した価値ある製品販売の展開を目指す。また、安心、安全を念頭に置き原料の選定を行うと共に、他店との差別化を図るため、原料の一つにある館や米粉については自家製に切り替え、製品の充実と拡大を目指す。尚、米粉については、生活介護に作業を委託し精米から粉末処理を行い、店舗製品をはじめ、白老町の「ご当地グルメ」として活動を行なっている「バーカーリー＆ベーグル研究会」の活性化に繋げていく。

＜生活介護事業＞

日中活動支援は身体機能、情緒、医療面を考慮し対応すると共に、作業・療育・創作・訓練・余暇活動を通して、社会参加・協調性・基礎体力の維持や個々の障がい特性に応じた対応を目指す。特に作業活動では、共生型事業所の開設に伴い、今後地域とのつながりの拠点としての活用や研鑽さらに、米粉粉砕機の購入に基づき、パン工場の下請け作業として、米粉の製造を行い定期的に就労B事業のパン工場に提供していく。

＜送迎サービス＞

サービス報酬改定による送迎加算創設に伴い、送迎サービス料金設定等の見直しにより利用者負担の軽減を図る。それに合わせて運営規程、重要事項説明書、工賃規程（通動手当部分）の改正及び周知を行う。

＜その他＞

- ・新生活介護事業所創設のための準備活動（川沿地区）
- ・中期計画作成へ向けての研鑽。
- ・白老愛泉園の地域移行事業への協力。
- ・共生型事業への協力体制。
- ・各種設備の更新と修繕、改修整備（メインサーバーの更新、トイレ手洗いの改修他）。
- ・災害時に迅速、適切な対応が出来るように、防災対策マニュアル、地震発生時の避難マニュアルの日頃から徹底および訓練時における活用や必要に応じた見直しを行う。

地域生活支援センター あぷろ 事業計画

平成23年3月1日より、利用者の生活の場を白老町市街地に、7名定員5ヶ所35名が24時間支援の共同生活介護（ケアホーム）事業住居に、5名定員1ヶ所の世話人通い型の共同生活介護（ケアホーム）事業住居に移し、新たな環境にて地域福祉サービスを受けることのできる体制を作ってきました。利用者個々の特性に応じた編成により情緒面の更なる安定を図り、小規模住居での生活によるアットホームな暮らしと、その支援を実現してまいりました。

個人が尊重され、安心して、安全な生活が営めることで、「生きる」実感を社会の一員として共生することを理念としました。地域生活支援センターあぷろは、まず、従来の形を第1支援課とし、拠点建物と他に11ヶ所の各共同生活住居に総勢49名の利用者定員の支援体制とします。世話人通勤型のケアホーム・グループホームが中心で1ヶ所に夜間支援を備えた共同生活住居での支援となります。第1支援課は中軽度で自立度の多い利用者を中心ですが、自らの行動による相談支援の訪問や外出、それらに伴う諸問題の対応、金銭管理・健康管理面の支援、日中活動事業所等との連絡調整、大小規模各行事等の実施や支援などに即したサポートを行ってまいります。

完全24時間支援型の第2支援課は、各ケアホーム5名のチーフを中心としたスタッフ体制により、利用者の生活全般を支えていきます。障がい特性による対応の個別化、広汎化、高齢化による身体機能への配慮、個別対応などの重要性を認識しながら、生活日課・日常生活動作（ADL）支援、保健医療面での支援、毎日の給食提供支援、日中活動事業所との連携や余暇支援など配慮した内容で実践していきます。

なお、今年度、本部機能を合わせた「共生型事業所はあもに」に事業所拠点を移して、その運営を行ってまいります。

1. 運営方針

- (1) 障がい者自立支援法に基づく事業の推進
- (2) 地域生活支援センターあぷろの支援体制（2課体制）
- (3) 日中活動事業所等との連携
- (4) 保健医療関係支援
- (5) 給食支援事業計画
- (6) 自治会・余暇活動支援
- (7) 職員研修及び運営管理
- (8) 相談支援事業等の研鑽